



資機材を利用した実践的訓練による 次世代を担う地域の防災リーダーの育成について

(高津ジュニアハイスクール消防隊)

川崎市消防局 原尻 賢司

1 川崎市高津区

川崎市高津区は、東京都と横浜市に挟まれた細長い川崎市域のほぼ中央に位置し、多摩丘陵の緑と多摩川の水辺など豊かな自然に恵まれた「まち」です。

江戸時代に庶民のブームとなった「大山詣」の宿場町として発展し、その後は江戸に物資を運ぶ大切な輸送路として栄えました。



大山街道における少年消防クラブの行進

2 なりたち

近年、熊本地震などの大地震や北海道・岩手豪雨などによる災害が各地で頻発しており、住民の生命、身体及び財産を災害から守るために、地域の住民による防災力の重要性が増しています。

しかし、区外への通勤者の増加、少子高齢化の進展、さらに、学区等を越えて通学をする学生の増加など、社会経済情勢の変化により地域における防災活動の担い手を十分に確保することが困難となっています。

そのような状況下、学区外に通学する高校生や通勤者とは異なり、平日の昼間帯で

あっても、地元にいる心強い味方が中学生です。

「体力的に大人と遜色のない中学生に協力を求めることで、貴重な防災資源が確保される」との考えから中学生に対する防災教育を促進しながら、災害時には進んで初期消火活動に協力する「風土づくり」と地元消防団をはじめとする防災コミュニティ等と連携した「防災活動への参加」を意識付け、次世代における「防災リーダー」として育成することで、地域が一体となった防災力の強化を図ることを目的としています。

3 訓練内容

高津ジュニアハイスクール消防隊においては、「事前教養」と「資機材を使用した実践訓練」を柱に実際の活動に即した訓練を実施しています。

<事前教養>

- 阪神・淡路大震災など過去の災害事例や教訓を理解し、防災の必要性和災害感を養成する
- 火災を拡大させないことが減災に繋がることの理解を促す
- 消火栓の種類・構造等の基礎知識の習得、町内会に設置されている格納箱の実態の理解を促す

<器具取扱い訓練>

- ホースの搬送要領、展張要領、結合要領、筒先を背負う要領等、操法に必要な基本操作要領の習得を図る

<消火栓操作要領>

- 実際の消火栓を使用して、開閉器による操作方法と注意事項の習得を図る

<消火器取扱い訓練>

- 消火器の種類、型式、構造、有効範囲の理解を促す

<消火栓直結操法>

- 5名1組による消火栓に直結して放水する操法実施要領の習得を図る

<総括>

- 初期消火活動の重要性を認識し、災害時には地域と一体となった活動ができるようにし、普段の火災予防についても、率先的に対応できるように協力を求める

4 訓練等の参加

- 高津区内の自主防災組織主催の防災訓練や高津消防団の出初式に参加



高津区消防出初式におけるジュニアハイスクール消防隊の行進

全国大会において、クラブ活動紹介、合同訓練、避難所体験などを通じ、他のクラブ員とも交流を図り、被災地見学など、とても貴重な体験をしました。

<第2回全国大会(交流会)に参加したクラブ員の感想>

- 「優勝できなくて悔しかったが、被災地を実際に見て、自分たちにもできることがあると感じた。皆さんに教わったことを忘れず、災害に備えていきたい。」
- 「私が失敗したが、皆が『お前だけのせいじゃない』と言ってくれた。昼ご飯を食べた後『よし、やってやる』と気持ちを切换え、良い成績が取れた。」
- 「被災地の復興が進んでないので驚いた。」
- 「被災地の復興に『役立つ仕事に就きたい』と思った。」など、肌で感じてくれました。



高津ジュニアハイスクール消防隊、全員集合!



40ミリホースを使い、実際の放水演技

- 今年度は特に宮城県南三陸町で開催された少年消防クラブ交流会(全国大会)に参加

5 あとがき

最後に、訓練を指導していただいた消防団の方からのとても胸にささる、重みのある、お話を聞いたのでご紹介させていただきます。

『あのね、後輩を教えるのはね、ぼくら先輩の役目なんだよ』

『将来の消防団員を育てるのはね、現役の消防団員の役目なんだ』

『それがね、ぼくらの使命でもあるんだよね』と。敬礼!